

信州型UDをUP DATE

認知や発達の特性に応じた学び

Start UP リーフレット



長野県教育委員会では、**全ての子どもに特性がある**という認識のもと、信州型UDを活用し、**全ての子どもが自分らしく学ぶ**ことができる授業づくり、学級づくりを推進してきました。この取組の更なる充実を図り、一人の子どもも取り残されない「**多様性を包み込む**」学びの環境をつくるために、「**認知や発達の特性**」に焦点をあて、令和5年度より2年間の実証研究を進めています。

実証研修1年目の取組として、学びの改革パイオニア校の実践と有識者の皆様との議論を基に、子どもたち一人ひとりが他の誰でもない自分の**個性や可能性**を認識し、多様な他者を尊重できる「**学校・学級づくり**」の**ヒント**になるよう、このリーフレットを作成しました。

「**静かに座って**授業に参加しているけど、**伸び悩んでいる**」
 「**教科によって**取組に**大きな差**があり、**継続的な活動**になりにくい」
 「**同世代の子どもとは**興味の対象**レベルが異なり**、**一斉一律の授業**では、**学びが深まらない子ども**が増えてきている。」

などの悩みを踏まえ、これからの子どもたちへの支援を**考えるきっかけ**にぜひ御活用ください。

はじめに

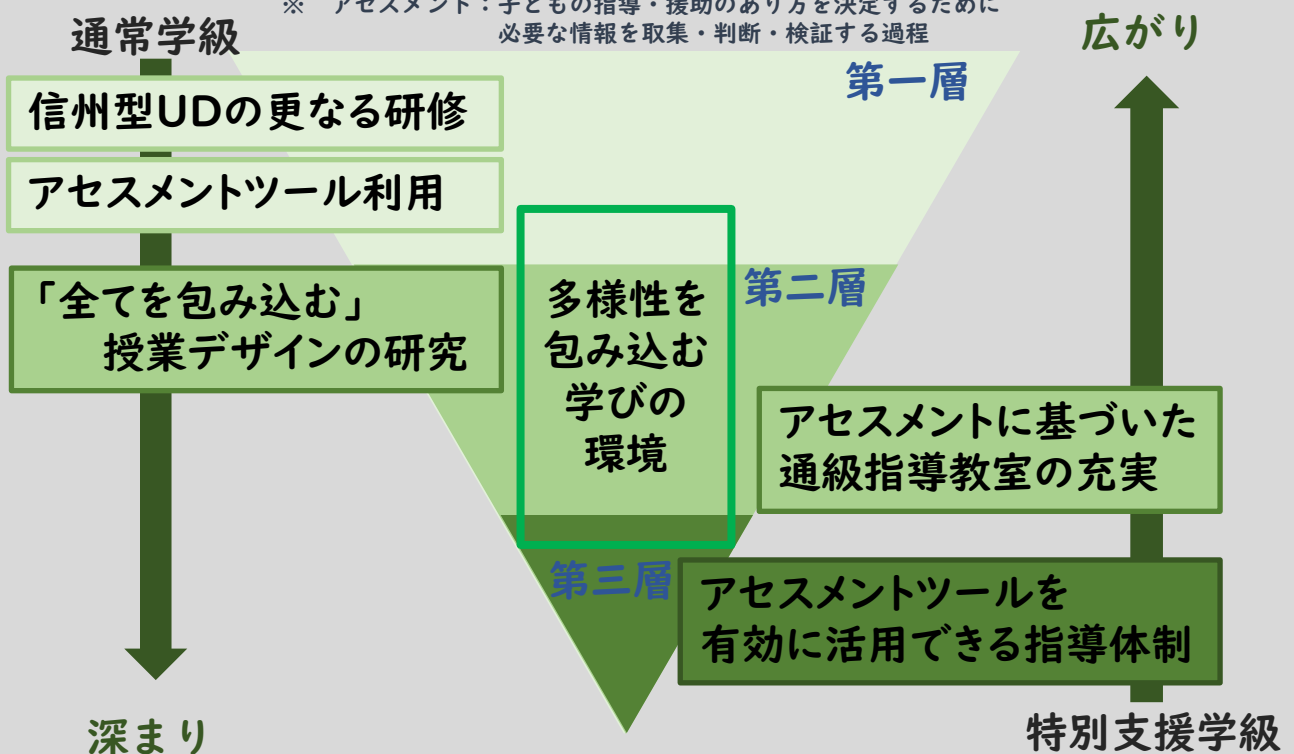
多様性を包み込む学びの環境をイメージしてみましょう

下図の大きな▽は、全ての児童生徒を表しています 【参考】LITALICOジュニア

第一層：通常学級での質の高い指導を実施 第二層：通級指導教室等での少人数での補足的な支援

第三層：特別支援学級等での個別的な支援

※ アセスメント：子どもの指導・援助のあり方を決定するために必要な情報を収集・判断・検証する過程



～全ての小・中学校が「多様性を包み込む学びの場」となるためのはじめの一歩～

キーワード：「静かに支援を必要としている子」はいませんか？

「はじめに」で示した「多様性を包み込む学びの環境」を全ての小・中学校で実現するためには、まず、通常の学級（第一層）に在籍する「多様な子ども」の実態を把握することが重要です。文部科学省から委託を受け実施する本実践研究の1年目（R5年度）は、通常の学級において、「静かに支援を必要としている子」に着目しました。



「静かに支援を必要としている子」に気づき支援につなげるためフロー

気づき 担任による気づきとアセスメントツールによる気づき

「静かに支援を必要としている子」に気づくのは担任の役割です。「集中力が続かない」「やる気が乏しい」「読み書きが苦手」「登校渋り」など、担任の感覚や経験による気づきとともに、**集団を対象としたアセスメントツールを活用し客観的にその子の実態を把握していくことも重要です。**また、教科担任や特別支援教育支援員等、関係する職員の気づきも大切にしましょう。



役立つられそうなツールや資料の例

- 【**集団を対象としたアセスメントツールの例**】
 - ◆多層指導モデル MIM (Gakken) → 読みの基礎となる特殊音節のアセスメントと指導
 - ◆たつじんテスト (内田洋行) → ことばと数の分野のつまづきを明らかにするためのテスト
 - ◆学級集団アセスメント (生徒指導アンケート等) (民間企業のもの、市町村や学校独自のもの)
- 【**個人を対象としたアセスメントツールの例**】
 - ◆実態把握のためのチェックシート (長野県教育委員会) *各種ハンドブック内に掲載
 - ◆「吃音、チック症、読み書き障害、不器用の特性に気づく『チェックリスト活用マニュアル』」(厚生労働省)
 - ◆LITALICO 教育ソフト → 「感覚・運動面の困り」「学習面の困り」「行動面の困り」「スキルの習得状況」のアセスメントが可能

何に困っているかの検討 担任と特別支援教育コーディネーターの連携

担任は「静かに支援を必要としている子」に気づいたら、**一人で抱え込まず特別支援教育コーディネーター（特 CO）に相談**しましょう。担任と特 CO の連携により、その子が何に困っているのかを把握します。その際、**個人を対象とした詳細なアセスメントツール**を活用し客観的にその子の実態を把握しましょう。



支援の検討 校内教育支援委員会の機能発揮

担任と特 CO によるアセスメント結果を、**校内教育支援委員会で共有し、本人の願いを大切に支援の検討**をしましょう。学年会・教科会などその子に関わる全職員がその子を理解し、支援にあたることのできる体制を整えておくことが大切です。支援の検討の際、**通級指導教室担当者や特別支援学校のセンター的機能の活用**等外部機関からの助言を得ることも有効です。



支援の実施 チームによる支援・通級指導教室との連携

「支援の検討」の際に確認された支援体制により支援を実施します。T.T.による支援を行う際には、座席表に支援のポイントを記述しておく等、支援を行う職員と支援方法を共有し、役割分担を明確にしておきます。個別の指導と「その子に応じた、集団への参加につながる学習」も大切にします。また、通級指導教室担当者の助言を得ながら、通常の学級の中で、その子に合った学び方を選択できるようにする工夫や配慮も必要です。

<学級・授業づくりのポイント> ~実証研究協力有識者からのメッセージ~ 子どもが困っていることを安心して発信できる、自分が他の子と違うツールを使って学ぶことに安心できる学級であることが前提です。授業づくりでは、次のような工夫もしましょう。
◆「静かに支援を必要としている子」がいることを前提に、全ての子が興味を持てる題材の選択・工夫
◆子どもが選択する場面を多く設ける
◆興味が共通する子ども同士でのグルーピング 等



【支援の検討に役立つ情報】

- ◆合理的配慮実践事例集 (長野県教育委員会) → ワンポイント配慮例を掲載
- ◆小中学校学習指導要領解説 (文部科学省) → 「障害のある児童への配慮についての事項」に支援の工夫を掲載
- <小学校> <中学校>
- ◆インクル DB (国立特別支援教育総合研究所) → 合理的配慮の事例を掲載
- ◆特別支援学校のセンター的機能の活用
- 【通常の学級の授業づくりの参考となる情報】
- ◆特別支援教育支援員が活躍する校内連携のしおり (長野県教育委員会)
- ◆信州型ユニバーサルデザイン研修シリーズ (長野県教育委員会)
- ◆小学校・中学校通常の学級の先生のための手引書 通級による指導を通常の学級での指導に生かす (国立特別支援教育総合研究所)

気づき 担任による気づきとアセスメントツールによる気づき

支援を必要とする子は担任による気づきが大切ですが、学級集団アセスメント(比較的簡便な生徒指導アンケート等)を行うことで、担任による気づきだけに頼らない把握を試みたところ、全校200名程の子の内40名程が何らかの配慮が必要である可能性が示されました。その内4名は、これまで通級指導教室や特別支援学級での支援や集団の中で、何らかの支援が必要であると認識されていない(気づかれていない)子でした。
<ポイント> 担任による気づきをベースとしつつ、簡便なアセスメントを広く実施することで、「静かに支援を必要としている子」を把握。

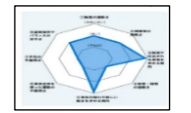
何に困っているかの検討 担任と特別支援教育コーディネーターの連携

上記の個別の支援が必要な可能性のある4名について、特 CO が担任へ聞き取りを行うとともに、教室で行動観察を行いました。また、担任とともに、実態把握のためのチェックリストや LITALICO 教育ソフト等のアセスメントツールを用い、詳細なアセスメントを実施し、困りごとについて客観的に把握しました。その結果、4名のうち2名は、個別の支援が必要であることが分かりました。
<ポイント> 支援が必要な可能性のある子について、更に丁寧に特性・課題等を確認。個別の指導計画を作成すべき子などの明確化。アセスメントだけによらず、子どもが自分の困りごとに気づくための担任や特 CO 等との相談等も有効。

計算が苦手な A さん

聞くことが苦手な B さん

- 担任と特 CO が LITALICO 教育ソフトによるアセスメント ⇒ 「計算する」の項目で困難さ。⇒ 特 CO が、相談・支援を行うと、A さんは「2けたでわるわり算の筆算が苦手」と分かる。⇒ 特 CO がさらに詳しく観察すると、「2けたでわるわり算の筆算」は手順が多く、順を追って計算していくことにつまずいていることが分かる。
- 特 CO が授業で行動観察 ⇒ 担任の指示や説明を聞き取れていないと分かる。⇒ 担任と特 CO で、LITALICO 教育ソフトによるアセスメント。⇒ 「集中することが苦手」、「ケアレスミスが多い」、「人の話を聞き逃すことが多い」の項目にチェックが入った B さんは、注意・集中が苦手であるため担任の指示や説明を聞き逃していることが分かる。



支援の検討 校内教育支援委員会の機能発揮

個別支援が必要と判断された 2 名について、担任と特 CO からの情報をもとに、校内教育支援委員会で「誰が」、「どのように」支援できるか、校内資源と照らし合わせ検討しました。通級指導教室担当者からの助言も参考に、2名のつまづきについて、次のように支援を行うこととしました。
<ポイント> 全職員で特性を共通理解。本人の願いを大切に支援を検討。通級指導教室担当者や外部機関からの助言も有効。

計算が苦手な A さん

聞くことが苦手な B さん

- 「自分で計算ができるようになりたい」という A さんの願いを実現するために ⇒ A さんが自分で計算するために「誰が」、「どのように」、「どんな方法で」支援をするかを検討。⇒ 自分で計算するために必要なこと(手順表)、必要な支援体制(特別支援教育支援員等による支援)を決定。
- 「今、何をすればよいか分かるようになりたい」という B さんの願いを実現するために ⇒ B さんが注意・集中するために必要な環境整備と支援体制を検討。⇒ 注意・集中を促すために、教室環境を整えること、担任の話し方を工夫すること、必要に応じて特別支援教育支援員等による支援の実施を決定。

支援の実施 チームによる支援・通級指導教室との連携

計算が苦手な A さん

聞くことが苦手な B さん

- 「2けたでわるわり算の筆算」では、特別支援教育支援員が手順表を使い計算する方法を伝える事から開始。⇒ A さんは自ら手順表を使って計算することを選択し、粘り強く計算できるようになる。(特別支援教育支援員等が個別に支援する時間も減)
- 担任は、B さんが集中しやすいように、教室前面や黒板の周囲の環境を整え、座席を担任の近くに移動。⇒ 担任が指示・説明時、注目を促したり、個別に伝えたりする、特別支援教育支援員等が、学習の進捗状況を確認し必要に応じて声をかけることで、注意・集中が継続。⇒ 「課題が何かわかっていない」状態であったが、やるべきことがわかるようになり、自ら学習に取り組む姿。

<ポイント> 担任だけに任せないチームによる支援。子どもが自分の困りごとに気づき、自分に合った学び方を選択することが重要。一定期間の支援実施後、支援の見返りと次の支援の検討も必要。

研究校では、同じ支援を一定期間継続したのち、校内教育支援委員会で情報を共有し、支援の効果を検証しました。校内教育支援委員会で、2名にとって必要な支援が実施されたことで、「設定された課題を受容し、友だちや先生の考えを聞いて、粘り強く学ぶことができるようになった」ことが確認されました。支援方法の検討時、通級指導教室担当者を交えて2名の困難さに合わせた支援内容を検討し実施すると同時に、担任が信州型 UD のポイントを生かして学習環境を整えたことも有効な手立てとなりました。そして、再度、学級集団アセスメントを行うと、2名とも学習意欲の高まりがみられました。

研究校では、R5年度、「静かに支援を必要とする子」に着目し研究をスタートしました。今後は、全ての子どもが自分の特性を理解し、例えば、デジタル教科書などによる文字以外の情報の有効活用等を通して、自分に合った学び方を選択できることを目指します。

今後は・・・

授業改善が進み、多様性を包み込む授業をイメージしてみましょう



【図1】

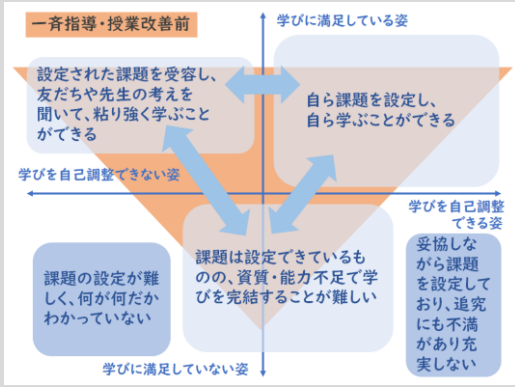
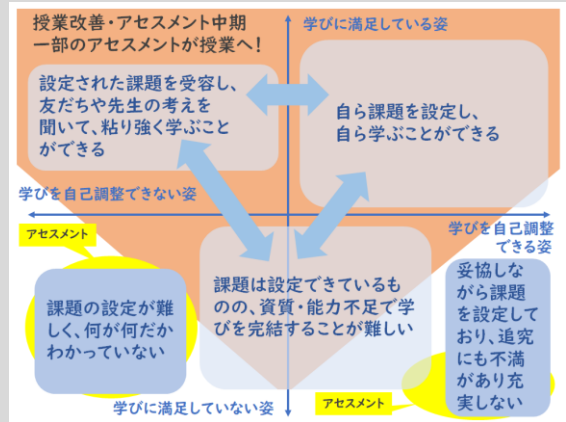
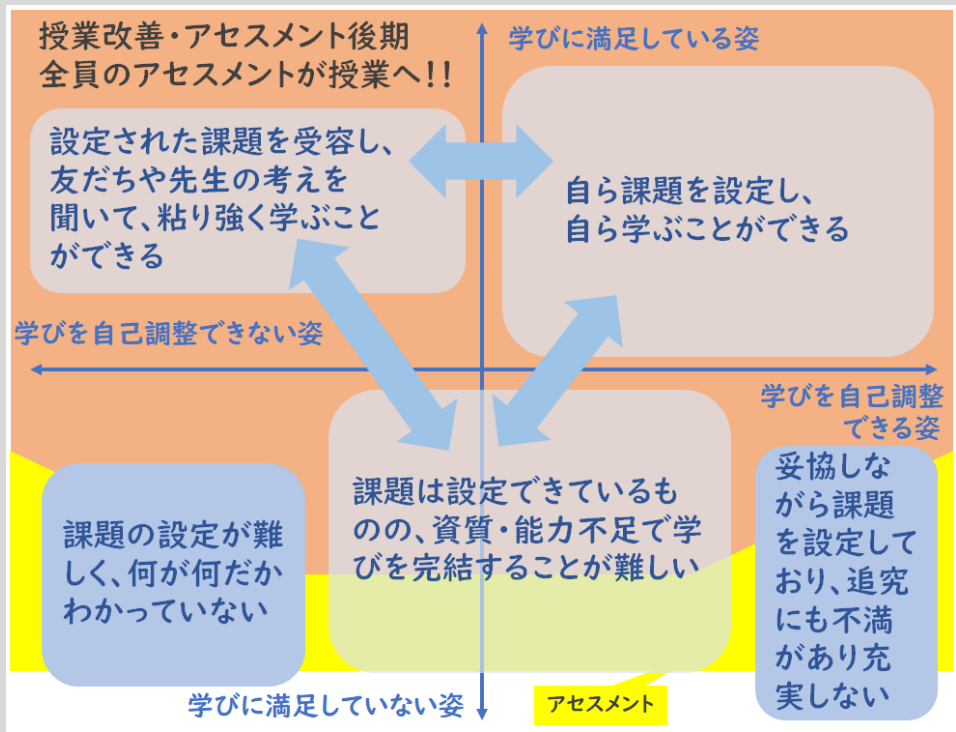


図1の▽は、一斉指導の限界と言われている約70%の子どもたちを表しているのですね。

【図2】



【図3】



▽に入らない子どもは、左下や右下にいとすれば、支援の方法や対応も変わってくるかも。



授業改善と様々なアセスメントを組合せて、図2を経て図3のような「多様性を包み込む」授業をつくっていくというイメージだな。

子どもたちの「学びへの満足感」「学びを自己調整する資質・能力の育成」が重要であり、デジタル教科書など文字以外の情報の有効活用と合わせて、今後も実証研究を進めていきます。

合わせて、アセスメントについても「目的」と「手段」を整理し、より有効な活用につながるよう事例等を収集し、全ての子どもにとっての「多様性を包み込む」学びの環境づくりを進め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実につなげます。

それにより、授業が知識やスキルの習得に偏ったものから、探究し続ける中で、知識やスキルを獲得し、他者と協働しながら学べるものとなり、全ての子どもが「認知や発達の特性」に応じて、自分らしく学べるものに変化していくと考えます。

協力有識者

- 常葉大学教育学部 教授 笹森洋樹 氏
- 株式会社SPACE CEO 福本理恵 氏
- 信州大学教育学部 教授 高橋知音 氏
- 大阪市立大空小学校 初代校長 木村泰子 氏
- 信州大学医学部 教授 本田秀夫 氏
- 信州大学教育学部 准教授 佐藤和紀 氏



学びの改革パイオニア校

- 佐久市立中込小学校
- 佐久市立高瀬小学校
- 伊那市立東部中学校
- 塩尻市立桔梗小学校
- 長野市立山王小学校

アセス実証校

- 松本市立開成中学校
- 長野市立鍋屋田小学校

このリーフレットの情報を含む、研究の最新情報はこちらから発信しています

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyogaku/kyoshokuin/shiryo/ninchihattatu.html>